



我が国の屋台骨を支える究極のGeneralist

経歴

| | | |
|-------|----|------------------------------------|
| 平成11年 | 4月 | 自治省採用 同 行政局行政課 |
| 平成11年 | 8月 | 宮崎県総務部地方課 |
| 平成13年 | 4月 | 内閣府政策統括官(防災担当)付 参事官(地震・火山対策担当)付 |
| 平成15年 | 4月 | 総務省自治財政局公営企業課 |
| 平成16年 | 4月 | 長崎県総務部学事振興課企画監 |
| 平成17年 | 4月 | 同 総務部税務課長 |
| 平成18年 | 4月 | 同 政策企画部政策評価課長 |
| 平成19年 | 4月 | 同 総務部財政課長 |
| 平成22年 | 4月 | 内閣府沖縄振興局総務課課長補佐 |
| 平成23年 | 4月 | 南相馬市副市長 |
| 平成25年 | 4月 | 現職 |

自治財政局財務調査課課長補佐

村田 崇

Takashi Murata

総務省は、地域において現場感覚を養い、机上の理論ではなく、地に足のついた政策議論を行いながら政策形成ができるという意味で、非常に人間味にあふれ、思いやりの心を持ちながら我が国の枠組みを作り上げていくことができる組織だといえます。総務省「らしさ」とは具体的にどこにあるのか？私の経験をもとにご紹介します。

リアリティのある現場感覚

総務省職員は多くの地方公共団体勤務を経験します。私自身、宮崎県・長崎県・南相馬市と3度の地方公共団体勤務で、総務省に在るだけでは経験することのできない様々な分野の業務に携わりました。特定の業界や人の立場だけでなく、広く地域の皆さんと接する、そんな経験を積み重ねることが複眼的な視野を有することにつながり、ゼネラリストとしての能力を養うことができる、これが総務省における地方勤務の強みです。

現場感覚から生まれる「思いやり」のある政策

現場での経験を重ねる中で、総務省職員は全国各地に多くの友人・知人を得ることができます。公私にわたり様々な方と知り合い、多様な経験を積むことで、それぞれの立場や人の気持ちを知ることができます。そして、霞ヶ関で政策を形成するにあたっては、この経験が活かされます。色々な立場の方の様々な意見あるいは一人ひとりの顔を思い浮かべ、人の痛みも理解しながら政策形成すると

いう、いわば現場経験を土台とすることで、真に住民のためとなる政策を作り上げることができるのではないかと思います。

国の枠組みを作る

人口減少、超高齢化の時代をむかえ、税収も伸び悩んでいる一方、住民の行政サービスへのニーズが多様化し、社会保障関係経費も増大を続ける現在、地方公共団体の財政運営は厳しい状況にあります。このような中で、地方公共団体が健全で安定した行政運営を続け、住民のためとなる政策を実施していくためには、財政の健全性を確保することが前提となります。そして、財政の健全性を確保するためには、地方公共団体自らが、歳入確保や職員数、給与の見直しなど徹底した歳出削減に取り組むことが必要です。

私が現在所属する部署では、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、財政指標の整備とその徹底した開示や、早期健全化の仕組みを導入し、地方公共団体の財政の健全化を図っています。このように、地域のため、住民のために我が国全体にわたる枠組みを構築するというダイナミズムも総務省における仕事の醍醐味の一つです。

Generalistのススメ

リアリティのある現場感覚と、そこから養われる複眼的視点、思いやりのある政策、これらは総務省ならではの特徴であり、また、逆に国全体の枠組みを作る仕事だからこそ必要な特徴ともいえます。

私は、物事を一側面からのみ捉えたり、地域や人を切り捨てるといった発想では、結果的に国力全体の向上には繋がっていかないのではないかと思います。我が国の枠組みを作

り、社会を動かしていくというダイナミズムの裏では必ず住民一人一人の気持ちが反映されたものとなっていなければならない、そうであるからこそ心の通った、意味のある政策となるのです。

スペシャリストの時代と言われ久しい現在でありますし、私自身特定分野で大きな力を発揮できる人に憧れの思いも抱きます。しかし、めまぐるしく変化する時代であるからこそ、また、総務省が我が国全体に関わる枠組みを作っていくからこそ、多分野にわたる知識や経験をもとに、人の痛みを理解しつつも迅速に物事を判断し対応できる骨太なゼネラリストが我が国の屋台骨を支える存在として必要なのです。我が国を背負うという気概を持った皆さんと一緒に仕事ができる日が来ることを楽しみにしております。



被災地視察の様子



職場の仲間と高尾山へ(筆者後列左)

経歴

| | | |
|-------|----|-----------------------|
| 平成12年 | 4月 | 自治省採用 同 行政局公務員部給与課 |
| 平成12年 | 8月 | 秋田県企画振興部市町村課 |
| 平成14年 | 4月 | 総務省大臣官房秘書課 |
| 平成15年 | 7月 | 同 自治税務局都道府県税課 |
| 平成17年 | 4月 | 同 自治税務局企画課 |
| 平成18年 | 4月 | 福井県安全環境部環境政策課長 |
| 平成20年 | 4月 | 同 総務部財務企画課長 |
| 平成22年 | 4月 | 総務省消防庁予防課課長補佐 |
| 平成24年 | 4月 | 現職 |

自治税務局都道府県税課課長補佐

滝 陽介

Yosuke Taki

今から15年前、自らの進路を決めるにあたり、考えたことは2つありました。一つは人の役に立ちたいということ、もう一つは総合力をもった社会人に成長したいということでした。特定分野・組織にとらわれず幅広い視野から様々な社会の課題を解決して一人でも多くの人が喜ぶ顔が見たい、そのためには自分自身が一人間として修養を重ね成長しなければならない、そう考えていた時に、「地方自治の現場は人間道場だ」と言ってくれた総務省を私が選ぶことになったのは、ある意味で必然だったのかもしれませんが、そして、今までの勤務を振り返った時、当時の自分の決断は決して間違いではなかったと思えることに本当に感謝しています。

地方の現場で得ること

総務省では旧内務省以来の伝統として、入省直後に都道府県に赴任します。内政全般を支える行政官として、地域の現場で何が起きているのか、その土地に飛び込んで肌で感じるという最初の修養の時です。私は秋田県に赴任しましたが、仕事はいうに及ばず、初の経験となる雪国暮らしは、秋田で出会った方々の温かいサポートなしには無事に過ごすことはあり得ませんでした。そして、社会人なりたてに過ぎない私に大いなる期待をこめて、秋田の方々が東京に帰る私を見送ってくれたあの秋田空港の風景を思い出す度に、あの日の感激と自分の初心が思い出され、少々の困難にもへこたれず立ち向かえる強さをもたらしています。

地方勤務としては、その後、福井県に赴任しました。管理職として、職場や関係する地

域の方々から信頼を得て、地域の個別の課題を一つ一つ解決することを通して、決断力、実行力、責任感を養う貴重な経験の場でした。特に福井県の予算を担当する財務企画課長時代は、県政のあらゆる分野の課題に直面しましたが、地域に住む方々のリアルな生活をどうやって守っていくのか、熱い議論を交わした日々は自分にとって大きな財産となりました。

税制を通じて国家のグランドデザインを描く

今、私は自治税務局で勤務しています。「税は国家なり」とよく言われます。過去を紐解いても、税が原因で転覆した国家・王朝は数知れず、税はその国の存立に関わる重要な役割を占めています。昨今は、厳しい財政状況の中でどのように税収を確保していくのが国家の最重要課題であるといってもいいでしょう。私は、昨年度は地方消費税を担当しましたが、社会保障財源の安定的な確保と財政健全化のために行った消費税・地方消費税の税率引上げはまさに政権そのものを左右する課題となりました。

また、今年度に担当している地方法人課税では、東京などの都市と地方との財政力格差をどのように是正するかが大きな課題となりました。一つの国の中で、地域における富の偏在はどの程度まで許容されるのかという難しい課題でした。

自分の税負担は軽くあってほしい、自分は豊かに暮らしたいと思うのは当然ともいえますが、厳しい財政状況の中、多くの方々に納得してもらえぬ解決策を提示できるのか。税制は、その性格故、政治の場面で調整が行われることが多いのですが、政治の世界も含めて悩み続ける日々を今後もこの国は送ることになると思います。

「人間道場」としての総務省



しかし、人々が安心して生活を送る上で、税の存在は欠かすことの出来ないこともまた事実です。税は難しい問題ですが、その税のおかげで助かる人々をどれだけ豊富に想像することが出来るのかが問題解決の大きなカギになると個人的には思っています。

一社会人として成長したい方へ

この国は実に多様な地域、暮らしから成り立っています。国家のために犠牲にしていけない地域、暮らしなどあろうはずがありません。もちろん、全ての地域、人々を豊かにすることは困難ですが、一人でも多くの人が幸せに笑って暮らせる社会にする努力を絶やしてはならないと思います。見せかけのキャッチフレーズを作って自己満足するのではなく、多くの人の顔を思い浮かべながら政策を立案することは苦しい作業ともいえますが、その苦しさから逃げ出さずに困難な課題に立ち向かう強さを、総務省のキャリアパスは鍛えてくれていると思いますし、その苦しみの果てに一社会人としての成長があるのではないかと思います。

この国に住まう人々の一人でも多くの笑顔を見たい、そして一人の人間として、社会人として成長してみたいという方には、総務省はきっと素晴らしい修養の場になるのではないかと思います。



東京消防庁での一日研修の1コマ